

平成
26
年度

大分県教育委員会の重点方針

『改革の徹底』

1. 「芯の通った学校組織」の定着

平成24年11月に策定した推進プランに基づき、平成26年度末までの2年半を重点取組期間として「芯の通った学校組織」の構築に取り組んでいます。

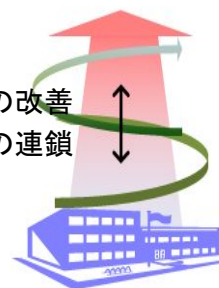
○平成24年度「第1フェーズ：趣旨の周知と制度の整備」

○平成25年度「第2フェーズ：実践・研修・指導による『芯の通った学校組織』の構築」

○平成26年度「第3フェーズ：『芯の通った学校組織』の定着」

中心課題：取組の徹底

- ①学校評価を活用した、学校の課題に直結した目標や取組の設定と短期の改善
- ②教職員評価システムに基づく、全教職員への目標の徹底と個人目標への連鎖
- ③主要主任等の役割の一層の充実と主任手当の趣旨の徹底
- ④企画立案の場としての運営委員会の活用推進
- ⑤目標の共有による家庭や地域との協働



2. 学力・体力の向上

これまでの各学校での取組の成果が確実に表れつつあります。この状況に止まることなく、子どもたちに達成感を感じさせながら、その力を一層伸ばしていきます。

学力の向上

- ◇「低学力層の底上げ」「上位層への更なる引き上げ」のための組織的な授業改善
- ◇指導主事による専門性と一貫性のある学校指導体制の構築
- ◇学校と地域が連携して、放課後・土曜日等における子どもの学びや家庭教育を支援

体力の向上

- ◇体力向上に向けた組織的な取組の促進（「一校一実践」の推進など）
- ◇体育専科教員等の優れた取組の共有や教職員の意識向上のための研修の充実

3. グローバル人材の育成

大分県から世界に通用する人材の育成の推進

本県としてのグローバル人材に求められる資質・能力や、現状、課題をまとめた上で、グローバル人材の育成に向けた取組を進めます。

平成26年度春に、グローバル人材育成推進会議（仮称）を設置
（企業、大学、学校関係者等から構成）

グローバル人材育成に向けた取組を計画的に推進



『各分野別の重点項目』

I 教育の再生と県民の期待に応える教育行政の推進

- 県教育委員会・市町村教育委員会・学校間の意思疎通の推進
- 「芯の通った学校組織」の定着と学校・家庭・地域による目標協働達成に向けた取組の推進
- 学校と地域が連携して、放課後・土曜日等における子どもの学びや家庭教育を支援
- 人権教育の学校教育における日常的な推進と社会教育における市町村への支援の充実

II 子どもの挑戦や自己実現を支える学校教育の推進

- 小・中学校におけるネットワークによる授業改善等を通じた組織的な学力向上の推進
- 世界に通用する人材育成のための教育の推進
- 郷土や国に対する愛着や誇りを育む心の教育の推進
- 学校司書の配置を促進し、学校図書館の機能強化や学校図書館活用教育を推進
- 学校全体で取り組む児童生徒の体力向上対策の推進
- 児童生徒のむし歯の減少を目的としたフッ化物洗口の普及啓発
- 地場産物の利用促進による安全・安心な学校給食を通じた食育の推進
- 高校生の進学力強化に向けた学校支援の推進
- 高校生の就職力向上に向けたキャリア教育の推進
- 一人一人の障がいの状態に応じた指導の充実や高等学校における特別支援教育の推進
- 特別支援学校高等部生徒の一般就労を目指した組織的な取組の充実

III 子どもの安全・安心の確保

- いじめ防止対策推進法によるいじめ対策の強化
- 不登校対策コーディネーターやスクールカウンセラーを活用した不登校対策の充実
- 学校内外における事故防止のための安全点検の徹底と安全指導の充実
- 非構造部材の耐震対策も含めた学校施設の耐震化、老朽化対策及び防災機能強化の推進

IV 生涯学習と文化・スポーツの振興

- 学習成果を学校支援や地域活動の場で活用し「地域力」を支える人材の育成
- 地域婦人会等の学習活動、実践交流を促進し、女性による地域活動を活性化
- 県立美術館開館に向けた気運醸成を図るための「まちなかアートギャラリー事業」の推進
- 国民体育大会や国際大会等で活躍できる本県選手の育成・強化と指導者の養成

V 教育基盤の整備

- 広域人事異動等を通じた人材育成と教職員の意識改革
- 学校マネジメント能力向上に向けた研修の充実
- 大学との連携・協働による「組織人としての教員」の育成
- ICTを活用した「わかる授業」の実践のための教育の情報化
- 高校改革の検証結果を踏まえた再編整備の推進
- 定期健康診断及び精密検査の受診率向上等による生活習慣病対策の推進
- ストレス診断全員実施や各種研修実施によるメンタルヘルス対策の推進